

「戻ってきたサマリア人」

ルカによる福音書 17 章 11～19 節

11 イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。 12 ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、 13 声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。

14 イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。

15 その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。 16 そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。

17 そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。

18 この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」

19 それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

\*\*\*

当時の社会ではこの「重い皮膚病にかかった人」たちは神からの罰を受けているとか呪われていて汚れているというふうに見られていて、町中には住むことができず、町の外の谷のほうにかりうじて生活をしていたと言われていました。

町に入ってくる時には「わたしたちは汚れたものです」と叫びながら通行するようになっていました。深刻な差別を受けていたのです。

彼らの希望は病気が良くなって祭司にチェックしてもらって、審査を受け清くされることで社会復帰ができるようになることでした。

しかし、実際には彼らの希望通りになることは少なかったと思います。

偏見で見られていたと思いますし、邪魔者扱いされていたからです。

さて、ある村でイエス様を遠くの方から「待ち構えていた病人」がいました。

遠くの方から、声を張り上げて、イエス様にお願いしています。

1) 私を憐れんでください

「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った

彼らは自分たちの状況を理解しており、社会的に絶望的な状況にいることを知っていました。

だから、あれしてください、これしてください、などという注文では

自分のためにはほとんど有益なことはないと感じていたのだと思います。

自分が癒やされたと思っても祭司のチェックがありますから、自分をいやしてください、だけでは間に合わないのです。

彼らは「憐れんでください」と叫びました。

神の憐れみによって、神様が願っている最善がわたしたちにもたらされますように、という願いが込められています。

「神様が心に向け、顔に向け、手を動かし、介入し、なにがしかの神様のみわざを私の中にもたらしてください」という心からの訴えが込められています。

## 2) 祭司たちのところに行って

「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。」

イエス様の言葉は直接的な命令でした。

「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」という言葉は彼らにとっては、希望に溢れている言葉です。

祭司たちの OK サインこそ、彼らが社会に復帰するための最も重要なものであり、そのためには「癒やし」「清め」が必要でした。

まさに、神の奇跡のわざが、彼らには必要でした。

そして、彼らが祭司のところに向かう途中で彼ら全員が癒やされたことを体感するのです。

## 3) 感謝を表明したのは

この 10 人の喜びはどれほどだったでしょう。

言葉に出来ないほどの喜びが溢れたと思います。

ところが、この出来事のあと、イエス様のところに感謝をするために戻ってきたのは 10 人のうちのひとりだけ。

しかも、それはサマリアの人だけでした。当時サマリア人はユダヤ人とは反目しあっていて、本当に仲が悪かったのですが感謝をするために戻ってきたのはユダヤ人たちから軽蔑されていたサマリア人だけ。

## 4) イエス様のお言葉

17 そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。

18 この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」

19 それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

わたしたちの信仰とはなんなのでしょう。  
このサマリア人の信仰とは何なのでしょう。

彼らはイエス様へのある種の信仰があり、声を大にして助けを懇願しました。これは自分たちの必要から生み出された信仰といえるでしょう。

溺れるものは藁をもすがる、というのと似ています。とにかく助けてもらいたい一心です。

そして、彼らはイエス様が命じたとおりに、祭司のところに向かいました。

これも、ある意味、信仰ですね。イエス様の命じたことをしっかり実行するわけですから。

そして癒やしがもたらされ、社会復帰の道が開かれました。

彼らの願いは聞かれ、彼らの願いは答えられました。

9人はここまででイエス様との関係が終わっています。

ある意味、彼らは信仰を持っていましたが、その信仰は

「自分のために神様を利用し、自分が益を受け取ればそれで用事は済んだ」というような感じのものです。

ただサマリアの人は「それらのことを振り返り、感謝の報告」をイエス様にしているのです。ある意味で、そこでこの信仰による一連の奇跡が完結するわけです。

神様の憐れみを受け取り、祝福を味わう。

そして、それを神様に感謝し、報告し、礼拝する。

この一連の流れはわたしたちの成長のためにとっても大切です。

願いで始まった信仰の行動が、感謝と礼拝で完結するという流れです。

それは、おそらく、一日の生活も同じだろうと思います。

朝、その日の生活のために神様の憐れみを求め、神様の助けを得て

一日を過ごす。そして、夜、一日の歩みの中に神様の助けや慰め、

励ましを感じて、感謝し、礼拝することで、その一日が終わる

という流れ。

これが毎日の流れであり、毎週の流れであり、毎年の流れになったとき、

信仰をもって生きられることの清々しさを味わうことになるのです。

気をつけないと、何となく「食い逃げ」をしているような信仰生活が

あるかもしれません。

感謝や礼拝に結びつかない信仰は、利用型の信仰なのかもしれません。無いより遥かにましなのかもしれませんが、困ったときだけの神様との関係というのは、とても残念であり、失っているものが多すぎると思います。あなたが個人で、感謝と礼拝を継続すること。神様からの促しに回答していくこと、それがとても重要です。

\*\*\*

MACF 礼拝説教はこちらです。

<https://youtu.be/TOD2duw28f4>